

(株)大門ファーム 代表取締役社長

# 拝野正美さん

「大門の米はおいしいとの評判を得ている。先輩たちが築いてきた米作りと荒廃農地ゼロを守り続けたい、そんな一心で2015年9月に法人化した」と話すのは、福知山市大門地区の(株)「大門ファーム」代表取締役社長の拝野正美さん(75)。法人化だけでなく同地区の農家で将来を見据えた地域農業の在り方について話し合い、京力農場プランの作成も進めてきた。京都府農地中間管理機構へ26畝の借受応募を行い、地域ぐるみで農業振興に取り組む。

同地区は同市西部の下豊富地

## 明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

# 荒廃農地ゼロを守る



▶ 法人化で大門地区の農業経営拡大に意欲を持つ拝野さん

域に存在する19集落の一つ。中山間地で約40畝の棚田が広がり、J・A京都にのくにて取り組む特別栽培米の生産基準に合わせた「コシヒカリ」や、昼夜の寒暖差を活かした「万願寺甘とう」などの京野菜の生産が盛んだ。01年には地区内の全農家60戸で「大門営農組合」を設立し、約5畝で小麦を生産して全量を同

J・Aに出荷してきた。しかし、「米は各戸で生産していたので高齢化でリタイアする人が増えてきた。このままでは農地が守れないという危機感を持ち、農地の利用権が取得できる法人化でみんなの力を結集して乗り越えていくしかない」と思いJ・Aに相談した」と同組合の組合長だった拝野さんは振り

返る。地区内の人たちも同じ思いの人が多く、法人化を順調に進めることができた。そして法人格は多様な事業展開が可能な株式会社を選択し、50戸の出資でスタートを決めた。

今年が同社の実質的な稼働年になる。「同機構に農地借入応募したが、地区内の合意で立ち上げた法人の強みで大半の人が当社に農地を預けてもらえる」と確信している」と拝野さん。預けてもらった大切な農地で「コシヒカリ」13・8畝、小麦8・4畝、飼料用米と酒造用掛け米「京の輝き」を各1・4畝作付する計画を立てている。さらに「うまい米を保つためにミニ・ライスセンターを設置したい。特産の『万願寺甘とう』の生産にもチャレンジしたい」と経営拡大への意欲は広がる。

.....

■法人所在地 福知山市字大門1485の1。電話0773(23)0728(拝野さん宅)。

■法人概要 2015年9月1日設立。役員5人、出資者50人、パートタイマー(農繁期)15人。